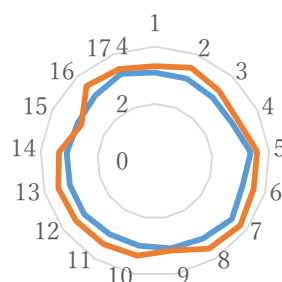


令和3年度 教育目標に対する卒業時の到達度自己評価平均値

	評価項目	令和3年度評価 平均値	令和2年度評価 平均値
1	人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された存在として理解できた。	3.091	3.32
2	人間を家族・集団・地域・社会の中で生活を営む存在として理解できた。	3.091	3.5
3	看護の対象の成長発達段階を理解できる。	3	3.32
4	対象の健康水準が理解できた。	3	3.23
5	豊かな感性、やさしさ、思いやりをもち共感的態度で対象に関わることができた。	3.364	3.59
6	自己理解、他者理解をし、信頼関係を基盤とした人間関係を築くことができた。	3.182	3.59
7	生命の尊厳について理解し、人間尊重に基づいた倫理観をもち行動できた。	3.364	3.73
8	専門職業人、社会人としての自覚を持ち責任ある態度が身についた。	3.182	3.59
9	看護の実践に必要な知識・技術・態度が身についた。	3.091	3.18
10	あらゆる場面に対して問題意識を持ち、状況に応じた判断能力を身につけることができた。	3	3.36
11	科学的思考力及びコミュニケーション能力を高め、その人らしい生活を支援できる判断と行動がとれる能力が身についた。	3	3.41
12	安全で安楽な看護が実践できた。	3.091	3.45
13	保健・医療・福祉制度と他職種の役割を理解することができた。	3.091	3.5
14	保健・医療・福祉チームにおける看護の役割と責任を自覚し、協働することの必要性が理解できた。	3.091	3.36
15	国際的視野で、国内外の社会の動向に関心をもつことができた。	3	2.86
16	看護の向上をめざし、看護を継続して探求する姿勢をもつことができた。	3.091	3.55
17	自己の看護観をもつことができた。	3.273	3.45

教育目標に対する卒業時の到達度自己評価平均値

— 令和3年度 — 令和2年度



令和3年度 教育目標に対する卒業時の到達度自己評価考察

令和4年3月1日

教育課程において、教育理念・教育目的・教育目標を設定し、5項目の教育目標に対し、【卒業生の特性】として本校の卒業時の到達度を示している。

令和3年度第27期生の卒業時の到達度自己評価として、【卒業生の特性】に示している17項目についてアンケート調査を実施した。アンケートの趣旨を説明し、同意の得られた3年生に対し、質問紙を配布しその場で回収した。回収率：100%

【結果・考察】

17項目の評価項目について、4段階（よくあてはまる・あてはまる・あまりあてはまらない・まったくあてはまらない）で自己評価を依頼した。

評価項目それぞれの平均値を出し、集計結果 資料1に示した。

卒業時の到達度自己評価平均値をみると、17項目中すべての項目において、「当てはまる」の評価3の平均値に到達できている。令和2年度17項目中最も自己評価が低く、平均値2.86だった「国際的視野で国内外の社会の動向に関心を持つことができた」では、令和3年度では平均値が3と若干上昇し、概ね到達できている。科目立てしていない学習内容を現行カリキュラムの学年でいかに補足していくかが課題であり、卒業生には看護管理の中で国際看護について特に内容の不足が生じないよう、事前に講師に依頼した。また2年生からは、特別講義を計画し、新カリキュラムより「文化人類学」「国際看護」を担当していただく講師に講義を依頼し、学習内の不足が生じないよう配慮した。

しかし、到達度自己評価平均値を見ると国際的視野以外の16項目すべてにおいて、平均値は低下しており、特に大きく低下している項目は「人間理解」、「信頼関係を基盤とした人間関係」、「専門職業人・社会人としての責任」、「看護の探求心」について0.4ポイント以上低下している。

対象理解や人間関係の構築について平均値が低下した要因は、新型コロナウイルス感染症感染拡大により臨地実習の経験が減少し、学内実習により事例演習となったことが考えられる。臨地実習の中で受け持ち患者様との関係性構築により学生は経験値を増やし、様々なタイプの方々との対応を学んでいく。また、実習の中で学びを充実させ、より深く対象を理解しようと興味・関心を寄せる体験をするが、対象とじっくりかかわれる成人看護学・老年看護学・精神看護学の実習において学内実習になることが多く、大きな影響があったのではないかと推察する。「専門職業人・社会人としての責任」、「看護の探求心」についても臨地実習の減少が影響していると思われるが、学内での教育の中でいかに学生に学ばせるかが課題である。

感染拡大により、学内での学習にも影響があり、看護師国家試験対策の仕上げの時期に自宅学習となった。クラスメイトが協力し、助け合いながら同じ目標に向かって学習する、学生時代にしか経験できない貴重な体験をしないまま社会人となって巣立っていくことにジレンマを感じる。

今後も新型コロナウイルス感染症の対策は先行き不透明である。今後更に、学内のクラス運営の中で「専門職業人・社会人としての責任」について意識づけを強化しなければならない。